

(証券コード3877)
平成30年6月1日

株主各位

東京都中央区銀座二丁目10番6号
中越パルプ工業株式会社
代表取締役社長 加藤 明 美

第102期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のお引立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第102期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、なにとぞご出席くださいますようご案内申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成30年6月26日（火曜日）午後5時までに到着するようご返送賜りたくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成30年6月27日（水曜日）午前10時
2. 場 所 富山県高岡市新横町1番地
ホテルニューオータニ高岡 4階 鳳凰の間
(末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。)
3. 目的事項
報告事項
 1. 第102期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第102期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）計算書類の内容報告の件決議事項
 - 第1号議案 剰余金の処分の件
 - 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件
 - 第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

以 上

お願い

- 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- 本招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、「連結計算書類の連結注記表」および「計算書類の個別注記表」につきましては、法令および当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.chuetsu-pulp.co.jp/>）に掲載しております。
- 添付書類および株主総会参考書類に修正をすべき事情が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.chuetsu-pulp.co.jp/>）において、修正後の事項を掲載いたします。

(添付書類)

事業報告 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

1. 企業集団および当社の現況

(1) 企業集団の主要な事業内容 (平成30年3月31日現在)

区 分	主要な事業内容
紙・パルプ製造事業	一般洋紙、包装用紙、特殊紙、板紙及び加工品原紙、パルプの製造並びに販売
発電事業	売電事業
その他の事業	紙加工品の製造並びに販売、造林・緑化事業及び木材チップ、薬品の製造並びに販売、運送業、建設業、倉庫業等

(2) 企業集団の主要な営業所および工場 (平成30年3月31日現在)

① 当社

本 社	東京本社 (東京都中央区) 高岡本社 (富山県高岡市)
支社・営業所	大阪営業支社 (大阪府大阪市) 名古屋営業所 (愛知県名古屋市) 福岡営業所 (福岡県福岡市) 北陸営業所 (富山県高岡市)
工 場	川内工場 (鹿児島県薩摩川内市) 高岡工場 (富山県高岡市) 生産本部 二塚製造部 (富山県高岡市)

② 子会社

連結子会社	三善製紙株式会社 (石川県金沢市) 株式会社文運堂 (東京都渋谷区) 中越緑化株式会社 (富山県高岡市) 中越物産株式会社 (鹿児島県薩摩川内市) 中越ロジスティクス株式会社 (富山県高岡市) 中越テクノ株式会社 (富山県高岡市) 共友商事株式会社 (東京都中央区)
-------	---

③ 関連会社

王子グループとの合弁会社	O&Cアイボリーボード株式会社（東京都中央区） O&Cファイバートレーディング株式会社（東京都中央区） O&Cペーパーバッグホールディングス株式会社（東京都中央区）
製袋事業持株会社（O&Cペーパーバッグホールディングス株式会社）傘下子会社（持分法適用会社）	中越パッケージ株式会社（東京都中央区） 中部紙工株式会社（愛知県半田市） 王子製袋株式会社（東京都中央区） 上海東王子包装有限公司（中国） 王子包装（上海）有限公司（中国） 王子製袋（青島）有限公司（中国） Japan Paper Technology (Viet Nam) Co.,Ltd.（ベトナム） Japan Paper Technology Dong Nai (VN) Co.,Ltd.（ベトナム）

(3) 企業集団の従業員の状況（平成30年3月31日現在）

① 企業集団の従業員の状況

区 分	従業員数	前期末比増減
紙・パルプ製造事業（発電事業含む）	857名	13名増
その他の事業	587名	21名減
合 計	1,444名	8名減

（注） 発電事業につきましては、紙・パルプ製造事業と兼任しているため紙・パルプ製造事業に含めて表示しております。

② 当社の従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
799名	14名増	41.8才	20.5年

(4) 重要な子会社の状況（平成30年3月31日現在）

① 重要な子会社の状況

会 社 名	資本金 百万円	出資比率 %	主要な事業内容
三善製紙株式会社	102	100.0	洋紙の製造及び販売
株式会社文運堂	96	100.0	紙製品の製造及び販売
中越緑化株式会社	58	100.0	造林緑化事業、木材チップ・薬品の製造及び販売
中越物産株式会社	80	100.0	運送業、造林緑化事業、木材チップ・薬品の製造及び販売、紙加工業
中越ロジスティクス株式会社	55	100.0	運送業及び紙加工業
中越テクノ株式会社	20	100.0	各種機械類の設計施工及び修理
共友商事株式会社	10	100.0	保険代理業

（注） 資本金および出資比率の単位未満は切り捨てて表示しております。

② 特定完全子会社の状況 該当事項はありません。

2. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当期におけるわが国経済は、政府主導による経済・金融政策を背景に個人消費の堅調な推移や、雇用環境の改善、好調な企業業績に支えられ緩やかな回復傾向となりました。

このような状況のもと、当社グループは中長期成長戦略プラン「ネクストステージ50」の総仕上げとして計画の必達を目指して邁進してまいりました。

紙パルプ事業におきましては、電子化の一層の進展や発行部数の減少で新聞用紙・印刷情報用紙分野での需要の縮小が進み、更には古紙を中心とした原燃料価格が高騰するなか、印刷情報用紙の販売価格の復元や製品パルプの販売強化に努めました。

発電事業におきましては、二塚製造部の送受電設備の故障による電力販売の減少がありました。木質バイオマス燃料発電設備において着実な収益確保に努めてまいりました。

しかしながら、印刷情報用紙の大幅な需要減少と販売価格の復元効果が限定的であったことや北陸地域での記録的豪雪による操業トラブル、古紙、重油、薬品などの原燃料コストの上昇が収益を圧迫し、「ネクストステージ50」効果を最大限発揮するには至りませんでした。

以上の結果、当期の営業成績は、売上高は94,824百万円と前期に比べ1.0%の増収となりましたが、操業トラブルや電力販売の減少、原燃料コストの上昇などにより1,242百万円の営業損失と前期に比べ2,731百万円の減益、1,293百万円の経常損失と前期に比べ2,690百万円の減益となりました。

また当期は、二塚製造部において紙・パルプ製造事業にかかる固定資産の減損損失を特別損失として計上したことなどで、5,206百万円の当期純損失となりました。

各事業部門別売上高および利益の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

区 分	報 告 セ グ メ ン ト			そ の 他	合 計
	紙・パルプ製造事業	発 電 事 業	計		
外部顧客への売上高	80,217	6,027	86,244	8,579	94,824
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,644	—	3,644	11,671	15,316
計	83,862	6,027	89,889	20,251	110,140
セグメント利益 又は損失 (△)	△3,153	1,417	△1,736	404	△1,331

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

○紙・パルプ製造事業

新聞用紙、印刷情報用紙の需要減少や市況軟化が進みましたが、包装用紙や製品パルプの販売を強化した結果、増収となりました。

しかしながら操業トラブルによる製造コストの悪化や原燃料価格の上昇が収益を圧迫したことで大幅な減益となりました。

○発電事業

木質バイオマス発電や太陽光発電は安定した収益を確保したものの、二塚製造部の送受電設備の故障により減収減益となりました。

○その他の事業

公共工事の受注増加により建設事業においては増収となりましたが、紙断裁選別作業・運送事業において操業トラブルに伴い生産量・運送量が減少したことや操業効率が悪化したことで減収減益となりました。

(2) 資金調達の状況

当期におきましては、効率的な資金の運用強化に努めてまいりました。

(単位：百万円)

区 分	第102期(当期末)	第101期(前期末)	増 減
短期借入金	28,553	29,526	△973
長期借入金	19,294	19,058	236
社 債	2,000	2,000	—
合 計	49,848	50,584	△736

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(3) 設備投資の状況

当期の設備投資額は4,779百万円となりました。主な設備投資は次のとおりで、新規事業、収益性の向上および生産性を維持するための工事を行っております。

当期中に完成した主要設備

ナノフォレスト事業部 セルロース・ナノファイバー第一期商業プラント
高岡工場 富山新港NO. 3 ベルトコンベア更新

3. 企業集団および当社の財産および損益の状況の推移

(1) 企業集団の財産および損益の状況の推移

区 分	第102期(当期) (平成29年4月1日 平成30年3月31日)	第101期 (平成28年4月1日 平成29年3月31日)	第100期 (平成27年4月1日 平成28年3月31日)	第99期 (平成26年4月1日 平成27年3月31日)
売 上 高(百万円)	94,824	93,882	99,927	101,141
経 常 利 益 又 は 損 失(百万円) (△)	△1,293	1,397	1,319	1,748
親会社株主に 帰属する当期 純利益又は純 損失(△) (百万円)	△5,206	1,255	162	1,608
1株当たり当 期純利益又は 純損失(△) (円)	△389.96	94.03	12.41	138.03
純 資 産(百万円)	49,276	54,808	53,231	51,115
総 資 産(百万円)	126,064	130,539	132,784	130,345

- (注) 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。
2. 平成29年10月1日付けで普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、1株当たり当期純利益又は純損失(△)は、第99期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

第99期は、円安による原料価格の高止まりや、消費税に伴う駆け込み需要の反動による販売数量の減少が収益を圧迫する状況のなか中長期成長戦略プラン「ネクストステージ50」を強力に推進した結果、前期に比べ増収となりました。経常利益は原料価格の高騰で減益となりましたが、大阪営業支社用地の売却益などを計上した結果、当期純利益は前期に比べ増益となりました。

第100期は、国内需要の回復が見込まれないなか、中長期成長戦略プラン「ネクストステージ50」の邁進と、王子ホールディングス株式会社との業務提携に着手するなど、収益基盤の構築に注力してまいりましたが、川内工場の台風被害などによる減産・減販や原料価格の高止まりが収益を圧迫した結果、経常利益は減益となりました。また固定資産除却損などの特別損失を計上した結果、当期純利益は、前期に比べ大幅な減益となりました。

第101期は、ますます進展する情報伝達媒体の紙から電子化の影響や、市場規模の漸減傾向が進むなか、中長期成長戦略プラン「ネクストステージ50」に邁進するとともに、王子ホールディングス株式会社との協力関係のもと輸入チップの共同調達、高級白板紙の共同生産、製袋事業における業務提携について事業展開を推進しました。その結果、売上は減少しましたが、経常利益は増益となりました。また当社子会社の製袋事業持株会社傘下子会社への異動に伴う持分変動利益などを計上した結果、当期純利益は、前期に比べ増益となりました。

第102期（当期）は、前記「2. (1) 事業の経過およびその成果」に記載したとおりであります。

(2) 当社の財産および損益の状況の推移

区 分	第102期(当期) (平成29年4月1日 平成30年3月31日)	第101期 (平成28年4月1日 平成29年3月31日)	第100期 (平成27年4月1日 平成28年3月31日)	第99期 (平成26年4月1日 平成27年3月31日)
売 上 高(百万円)	88,534	87,722	86,869	87,192
経 常 利 益 又 は 損 失(百万円) (△)	△1,806	1,134	732	1,062
当期純利益又 は 純 損 失 (百万円) (△)	△5,626	110	△190	1,681
1株当たり当 期純利益又は 純損失(△)(円)	△421.37	8.29	△14.57	144.29
純 資 産(百万円)	43,560	49,716	49,769	47,758
総 資 産(百万円)	119,150	123,943	124,966	122,024

- (注) 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。
2. 平成29年10月1日付けで普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、1株当たり当期純利益又は純損失(△)は、第99期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

4. 対処すべき課題

情報伝達手段の電子化や少子化による需要減少の動きはとどまることを知らず、市場規模は今後さらに縮減に向かうことが懸念されます。

中越パルプ工業グループは、発電事業の安定操業や高級白板紙の事業基盤の強化、セルロース・ナノファイバー（CNF）の開発促進など、ネクストステージ50で培った経営資源を最大限活かして収益確保に邁進するとともに、将来の需給環境をはじめ、いかなる事業環境の変化の下にあっても、常に成長を志向できる企業体質の基盤を築くため、中期3ヶ年計画「フォワード304」に着手いたしました。

中期3ヶ年計画「フォワード304」

企業価値の向上を実現することを基本方針に、事業領域の選択と創造により、営業利益30億円、ROE（株主資本利益率）4%の収益基盤の確立を目指します。

既存の発電事業や高級白板紙の生産販売を行っている王子グループとの提携事業に加え、事業領域の再構築、CNF「ナノフォレスト」の事業展開、不動産の有効活用、合弁事業への積極的な参画を事業戦略の柱として情勢の変化に柔軟に対応できる強い企業へと成長してまいります。

(1) グループ事業領域の再構築

縮小する紙の需要への対応として、パルプの販売ラインナップの拡充を図り、パルプ事業の更なる拡大を図るとともに、調達基盤、生産基盤などの強化によって更なるコストダウンを図り、不採算事業の再構築によって紙パルプ製造事業の抜本的な構造改革を展開し収益力の向上を推進します。

(2) ナノフォレスト事業展開

すでに一部で商品化が進んだ当社CNFは「ナノフォレスト」として、様々な応用分野への展開を図っています。

第一期商業プラントに引き続き高機能CNFパイロットプラントやCNF樹脂展開強化プラントの増強、新規事業分野への開拓を進め、北陸地域での生産拠点確立を含めた生産基盤の拡大を検討してまいります。

(3) 不動産の有効活用

保有する不動産の売却あるいは再開発による有効活用を検討します。

また有効活用で得たキャッシュ・フローでの新規不動産事業への展開も検討してまいります。

(4) 合併事業への積極的参画

製紙原料を使用した新素材「MAPKA®」（マプカ）を開発した、株式会社環境経営総合研究所と合併で食品トレイ用シートの製造販売事業に参入し、市場の拡大を図ってまいります。

今、世界的にプラスチックゴミによる環境問題がクローズアップされてきております。

特に海洋ゴミの増加やマイクロプラスチックによる海洋汚染といった問題からアメリカ、EUをはじめ世界各国でプラスチックの使用規制が強化されています。

新素材「MAPKA®」は使用後は一般ゴミとして焼却、再利用が可能であり、LCA（ライフサイクルアセスメント）評価においてもCO₂の排出量が少ない環境性能の高いポストプラスチックともいべき素材です。

漂着物に多く含まれるプラスチック



提供: 富山県生活環境文化部環境政策課

新素材マプカを使用した食品トレイ



提供: ㈱環境経営総合研究所

「MAPKA」は株式会社環境経営総合研究所の登録商標です。

また更なる事業展開においては、世界的に使用が禁止されつつある発泡スチロールの代替として紙を使用した断熱シートの製造販売を推進してまいります。

株主の皆様のご期待に応え、地域・経済・文化の発展に貢献するとともに、将来にわたり成長を続ける中越パルプ工業グループを築いてまいりますので、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

5. 会社役員に関する事項

(1) 取締役の氏名等 (平成30年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	加藤 明 美	開発本部管掌
専務取締役	植松 久	営業本部長
常務取締役	楠原 勝 市	経営管理本部長、内部監査室・東京事務所管掌
取 締 役	三 浦 新	資源対策本部長兼原材料部長
取 締 役	地 蔵 繁 樹	生産本部長
取 締 役	大 島 忠 司	経営管理本部副本部長兼管理部長
取 締 役 (常任監査等委員)	小 林 敬	(常勤)
取締役(社外) (監査等委員)	杉 島 光 一	公認会計士、税理士
取締役(社外) (監査等委員)	山 口 敏 彦	弁護士

(注) 1. 当期中の取締役の異動

(1)平成29年6月28日就任

取 締 役 大 島 忠 司

(2)平成29年6月28日退任

常務取締役 高 岸 伸

2. 取締役(監査等委員)杉島光一氏、山口敏彦氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
3. 監査等委員杉島光一氏は、公認会計士として長年に亘り会計監査業務をはじめ、事業再編、内部統制構築等に関するアドバイザー業務など様々な活動に携わっており、財務および会計に関する相当程度の知見と幅広い見識を有するものであります。また同氏につきましては、当社との間に特別の利害関係がなく、一般株主との利益相反が生じるおそれがないことから、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
4. 監査等委員山口敏彦氏は、弁護士として高度で幅広い知見を有しており、豊富な実務経験と専門的知見を活かして監査等委員としての職務を果たしております。また同氏につきましては、当社との間に特別の利害関係がなく、一般株主との利益相反が生じるおそれがないことから、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

5. 取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの情報収集および重要な社内会議における情報共有ならびに内部監査室との連携を充実させ、監査等委員会の監査・監督機能の強化を図るため、常任（常勤）の監査等委員を選定しております。
6. 当社は、社外取締役（監査等委員）杉島光一氏および山口敏彦氏との間で、当社定款および会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項に定める賠償責任を法令が定める額に限定する契約を締結しております。

(2) 取締役の報酬等の総額

区 分	支給人員(名)	支給額(百万円)
取 締 役 (監査等委員である取締役を除く。)	7	177
監査等委員である取締役 (うち社外取締役)	3 (2)	35 (13)
合 計	10	212

- (注) 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。
 2. 支給人員、支給額には、平成29年6月28日開催の第101期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでおります。

(3) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職の状況および当社との関係
該当事項はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

ア) 取締役会および監査等委員会への出席状況

地 位	氏 名	出席状況	
		取締役会	監査等委員会
社外取締役 (監査等委員)	杉 島 光 一	14回開催中 14回出席 出 席 率 100%	13回開催中 13回出席 出 席 率 100%
社外取締役 (監査等委員)	山 口 敏 彦	14回開催中 13回出席 出 席 率 92%	13回開催中 12回出席 出 席 率 92%

イ) 取締役会および監査等委員会における発言状況

・杉島光一氏は取締役会においては、長年に亘る公認会計士としての豊富な経験と、他会社の社外監査役として培われた見識をもとに、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための適切な助言、提言を行っております。

監査等委員会においては、幅広い知見を活かして監査等委員会としての意思決定の妥当性、適正性を確保するための適宜、適切な発言を行っております。

・山口敏彦氏は取締役会においては、弁護士としての法律に関する高度な知見と経験に基づく客観的な見地で、当社の意思決定の適法性、妥当性、適正性を確保するための助言、提言を行っております。

監査等委員会においては、専門的見地から適切な助言を行い、監査等委員会としての意思決定の妥当性、適正性を確保するための発言を行っております。

6. 会社の株式に関する事項 (平成30年3月31日現在)

- | | | |
|----------------|--------|----------------|
| (1) 発行可能株式総数 | | 45,000,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | | 13,354,688株 |
| | (自己株式 | 2,531株含む) |
| (3) 株主数 | 9,081名 | (対前期末比 989名の減) |
| (4) 大株主(上位10名) | | |

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
王子ホールディングス株式会社	2,753	20.62
日本紙パルプ商事株式会社	710	5.32
株式会社北陸銀行	573	4.29
新生紙パルプ商事株式会社	564	4.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	534	4.00
国際紙パルプ商事株式会社	534	4.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	414	3.10
株式会社みずほ銀行	401	3.00
農林中央金庫	401	3.00
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	263	1.97

- (注) 1. 持株数の千株未満および持株比率の単位未満は切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

7. 主要な借入先 (平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

借 入 先	借 入 額
農林中央金庫	9,610
株式会社北陸銀行	8,040
株式会社みずほ銀行	7,633

- (注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

8. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

仰星監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

- ① 当社の会計監査人としての報酬等の額 37百万円
- ② 当社および子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益合計額 37百万円

(注) 監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、監査の遂行状況および報酬見積りについて、過年度の実績等を勘案し、その妥当性について検証した結果、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の適格性・独立性・専門性および内部統制体制、監査計画、監査の方法と結果など職務執行の状況について審議の上、会計監査人の職務の執行に支障があると判断した場合には、監査等委員会の決議により会計監査人の解任または不再任を株主総会の目的とすることといたします。

また、監査等委員会は、会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した選定監査等委員が、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

9. 業務の適正を確保するための体制およびその運用状況の概要

当社は、企業価値の発展のため内部統制システムの構築に真摯に取り組み、その構築へ向けた不断の努力によって倫理観を持った透明なコーポレートガバナンス（企業統治）の実現が図られるものと考えている。

ここに、会社法および会社法施行規則に基づき、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他当社の業務ならびに当社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するため、「内部統制システムの構築に関する基本方針」を定め、そのシステムの構築に必要な体制の整備を図るものとする。

(1) 当社および子会社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ① 代表取締役社長は、取締役および使用人の職務の適法性を確保するため、行動指針として「経営理念」および「中越パルプ工業グループ企業行動憲章」を定め、全役職員に周知徹底を図るとともに、コンプライアンス（法令遵守）があらゆる企業活動の前提条件であることを繰り返し各役職員に伝え、全取締役は、社内のあらゆる会議において自由な意見の交換と徹底した議論、実質的な論議を深めることを実践する。

- ② 内部監査室は、当社グループ全体の運営状況について、監査する権限を持ち、独立した立場で客観的にリスク評価と業務プロセスの有効性の判断を行い、継続して内部統制システムの構築とコンプライアンスの推進を指導する。
- ③ 社内および社外に「内部通報窓口」を設置するとともに、「目安箱」を設置するなど、法令遵守はもとより、品質、安全、環境、人権、倫理といった様々な視点から当社グループのコーポレートガバナンスの確立を目指した体制を整える。
- ④ 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては断固として屈しない態度を貫くことを宣言し、平素から警察等の外部専門機関と連携を取りながら毅然とした対応を行う。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ① 取締役の職務執行に係る文書ならびに情報等については、文書管理規程に従い書面または電磁的記録媒体に記録し適切に保存および管理する。
- ② 取締役は、取締役の職務の執行に係る文書ならびに情報等について、必要に応じて閲覧することができる。
- ③ 情報管理の複雑化に対応するセキュリティー管理体制の構築を図るため、情報システムに関する規程を定め運用・管理する。

(3) 当社および子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 内部統制委員会規程に基づき代表取締役社長を委員長とする内部統制委員会を設置し、業務遂行上起こりうるあらゆるリスクの監視、発見にあたる。
- ② あらゆるリスクを未然に防ぐ態勢を強化するとともに、リスク発生時に迅速かつ適切な対応ができる管理体制の確立を図る。
- ③ 監査等委員会は、必要に応じて会計監査人または他の取締役若しくはその他の者から報告を受けることとしており、以下のような特別な事項に関する報告があった場合は、監査等委員会において必要な調査を行い、状況に応じ適切な措置を講じる。
 - i 会社に著しい損害をおよぼすおそれのある事実
 - ii 取締役の職務遂行に関する不正行為
 - iii 取締役の法令、定款に違反する重大な事実

(4) 当社および子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 取締役と執行役員体制をもって意思決定の迅速化と効率化を図るとともに、経営の客観性を高めるために独立社外取締役を2名以上置き、幅広い見識と先見力で経営の監視を受ける。
- ② 重要な経営判断が求められる事項については、取締役会規程および取締役会規程細則に定める意思決定ルールに従い、業務を遂行する。日常の職務遂行については、業務分掌規程に基づき、各部門の責任

者がその権限の範囲内で意思決定を行う。

- ③ 取締役会は、当社グループの財務、投資、コストなどの項目に関する目標を定め、目標達成に向けて実施すべき具体的方法を各部門に実行させ、その結果を定期的に検証し、評価・改善を行い、業務の効率化を実現する。

(5) 当社および子会社からなる企業集団におけるその他業務の適正を確保するための体制

企業集団の頂点に立つ親会社の全取締役は、グループ全体の運営においてあらゆるステークホルダーに対し説明責任を負うことを認識している。

- ① 経営管理担当取締役は、グループ事業に関する統括部門の責任者として、グループ企業の独立性を尊重しながら、常に業務プロセスに関する法令遵守体制やリスク管理を指導、モニタリングし、グループの各セグメントに対して横断的な管理を行う。
- ② 当社取締役およびグループ各社の社長は、それぞれの業務執行にあたり、適正を確保するための体制を確立する権限と責任を有している。
- ③ 監査等委員会は、独自にまたは会計監査人と連携して当社グループのリスク管理、コンプライアンス、財務の適正に関する事項等について監査を行い、その結果を監査等委員会で検証し、必要に応じて改善等の指導を行う。

(6) 当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に関する事項ならびにその使用人の当社の他の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性およびその使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- ① 監査等委員会がその職務を補助すべき取締役および使用人を置くことを求めた場合は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性と監査等委員会のその使用人に対する指示の実効性の確保の観点を含め協議する。
- ② 監査等委員会は、果たすべき監査業務を遂行する体制が保障されており、監査等委員会運営に関する事務など監査等委員会を補助する業務については、監査等委員会規程において定める担当部門がこれに当たるため、現在専属の使用人は配置していない。

(7) 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）および使用人が当社の監査等委員会に報告するための体制および子会社の取締役および使用人またはこれらの者から報告を受けた者が当社の監査等委員会に報告をするための体制その他の当社の監査等委員会への報告に関する体制

- ① 取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、取締役会において、職務の執行状況等について随時報告を行い、監査等委員会は、必要に応じて、取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人に対し随時その職務に関する報告を求める。
- ② 監査等委員会は、取締役、使用人等に対して業務および財産に関する必要な情報の提出、説明の要請を行うことができ、取締役および使用人等は、その権限の行使を妨げることはできない。
- ③ 財務諸表の適正性については、ITを活用した検証が可能となっており、経営管理担当取締役を作成責任者として、取締役会の承認をもってその有効性を確保している。

(8) その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われていることを確保するための体制

- ① 監査等委員会は、必要に応じて当社と子会社の監査を行い、トップマネジメントに対して指摘を行うことができる。
- ② 専門性の高い法務、会計については独立して弁護士、会計監査人と連携を図り、法令、定款、社内規則等の遵守および業務執行、経営の透明性の確保、適時開示、諸リスクに対する内部統制、資産の保全管理、子会社への指導、連結経営などの状況把握のため重要会議に出席している。
- ③ 取締役（監査等委員である取締役を除く。）との懇談、当社と子会社各部門への聴取と意見交換、資料閲覧、会計監査人の監査時の立会い、および監査内容についての説明を受けるとともに意見交換を行い、内部監査室と連携を取りながら企業集団の適切な意思疎通と経営の効率的な監査業務の遂行を図っている。
- ④ 当社は、監査等委員会への報告を行った者が、これを理由に不利益な扱いを受けることのないよう内部通報規程により保護しており、その旨を当社および子会社の全役職員に周知徹底する。

(運用状況の概要)

当社は、内部統制システムの構築に関する基本方針に基づき、行動規範、規則等を定め、当社および子会社の全役職員に周知徹底を図ることで、当社における最適なガバナンスの実現に向けて取り組んでおります。

当期の運用状況につきましては、年2回内部統制委員会を開催し、内部監査、内部通報の状況やコンプライアンスに関する職場ミーティングの実施状況などの確認を実施いたしました。

この結果、当社グループの経営に重大な影響をおよぼす事項、内部通報規程に定める是正対象事項や法令・定款に違反する行為等は認められないことから、当社における内部統制システムは適正に運用されていると判断しております。

10. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主価値と企業価値の持続的向上を目指し、業績の状況や企業体質の強化ならびに今後の事業展開等を勘案しながら十分な株主資本の水準を維持するとともに、株主各位に対する利益還元のための安定配当の実施を基本方針としております。

現段階において、経営責任の明確化と経営の透明性を確保するためにも株主総会において、剰余金の配当等の決議を諮ることが適切であると考えておりますので、当社は、定款に会社法第459条第1項に規定する剰余金の配当等を取締役会の決議により行う旨の定めを設けておりません。

これからも株価の動向や財務状況を考慮しながら適切に対応してまいります。

11. 取締役会の実効性評価の概要

当社は、取締役の業務執行に対する監督責任、取締役会の意思決定プロセスにおける議論の充実や情報収集と情報の共有、リスク評価と是正への対応などの観点に基づいたアンケートを実施しております。

評価の結果、各取締役が与えられた役割を理解し、十分な議論のうえ、経営の意思決定と適確な業務執行が行われていることを確認することができました。

従いまして現時点において取締役会の運営における実効性は確保されていると判断しております。

一方で中長期的な視点で取締役会の実効性を高めていく必要があるとの観点から、アンケートの充実、取締役の教育体制の強化により、潜在的な課題の掘り起しや、より効率的な運営体制の在り方についての検討などを行ってまいります。

連結貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	45,416	流動負債	52,176
現金及び預金	4,757	支払手形及び買掛金	16,122
受取手形及び売掛金	23,474	短期借入金	28,553
商品及び製品	7,934	1年内償還予定の社債	2,000
仕掛品	549	リース債務	39
原材料及び貯蔵品	5,043	未払法人税等	149
繰延税金資産	302	賞与引当金	461
その他	3,360	その他	4,850
貸倒引当金	△6	固定負債	24,611
固定資産	80,648	長期借入金	19,294
(有形固定資産)	(61,403)	リース債務	69
建物及び構築物	18,209	退職給付に係る負債	5,075
機械装置及び運搬具	35,028	関係会社事業損失引当金	63
土地	7,438	その他	107
建設仮勘定	324	負債合計	76,788
その他	402	純資産の部	
(無形固定資産)	(281)	株主資本	
無形固定資産	281	資本金	18,864
(投資その他の資産)	(18,962)	資本剰余金	16,253
投資有価証券	8,992	利益剰余金	13,009
関係会社長期貸付金	7,684	自己株式	△5
繰延税金資産	1,826	株主資本合計	48,122
その他	568	その他の包括利益累計額	
貸倒引当金	△109	その他有価証券評価差額金	1,440
		為替換算調整勘定	88
		退職給付に係る調整累計額	△375
		その他の包括利益累計額合計	1,154
		純資産合計	49,276
資産合計	126,064	負債純資産合計	126,064

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

招集ご通知

事業報告

連結計算書類等

監査報告書

株主総会参考書類

連結損益計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

科 目	金 額	
売 上 高		94,824
売 上 原 価		79,488
売 上 総 利 益		15,335
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		16,578
営 業 損 失		1,242
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	98	
受 取 配 当 金	136	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	34	
雑 収 入	147	417
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	234	
雑 損 失	233	468
経 常 損 失		1,293
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	9	
関 係 会 社 清 算 益	95	
固 定 資 産 撤 去 費 用 引 当 金 戻 入 額	173	278
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	386	
減 損 損 失	3,763	
災 害 に よ る 損 失	200	
特 別 退 職 金	23	4,374
税 金 等 調 整 前 当 期 純 損 失		5,389
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	175	
法 人 税 等 調 整 額	△358	△182
当 期 純 損 失		5,206
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 損 失		5,206

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自株 己式	株 資 合 計	その他有 価 証券評 価 差 額 金	為替換 算定 額	退職給 付に 係る 調整 累計 額	その 他の 包括 利益 累計 額 計	
平成29年4月1日残高	18,864	16,253	18,842	△4	53,955	1,209	37	△394	852	54,808
当連結会計 年度中の 変動額										
剰余金の 配当(△)			△667		△667				—	△667
親会社株主に帰属 する当期純損失(△)			△5,206		△5,206				—	△5,206
自己株式 の取得(△)				△1	△1				—	△1
連結範囲 の変動			42		42				—	42
株主資本以外の 項目の当連結 会計年度中の 変動額(純額)					—	231	51	18	301	301
当連結会計 年度中の 変動額合計	—	—	△5,832	△1	△5,833	231	51	18	301	△5,532
平成30年3月31日残高	18,864	16,253	13,009	△5	48,122	1,440	88	△375	1,154	49,276

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	43,624	流動負債	52,701
現金及び預金	3,894	支払手形	553
電子記録債権	143	買掛金	8,183
売掛金	22,085	電子記録債権	4,554
商品及び製品	7,224	短期借入金	24,064
仕掛品	503	1年内返済予定の長期借入金	7,753
原材料及び貯蔵品	4,829	1年内償還予定の社債	2,000
前払費用	56	リース債務	21
繰延税金資産	151	未払法人税等	530
短期貸付金	220	未払消費税等	72
未収入金	3,925	未払消費税等	134
その他の流動資産	264	賞与引当金	3,619
貸倒引当金	328	設備関係支払手形	292
△2	△2	設備関係電子記録債務	74
固定資産	75,525	設備関係の流動負債	666
(有形固定資産)	(59,755)	その他の流動負債	179
建物	13,343	固定負債	22,888
構築物	4,196	長期借入金	19,294
機械及び装置	34,514	リース債務	26
車両及び運搬具	1	退職給付引当金	3,399
工具・器具・備品	272	関係会社事業損失引当金	63
土地	7,059	資産除去債務	104
リース資産	42	負債合計	75,590
建設仮勘定	324	純資産の部	
(無形固定資産)	(274)	株主資本	
ソフトウェア	261	資本金	18,864
その他の無形固定資産	13	資本剰余金	
(投資その他の資産)	(15,495)	資本準備金	15,971
投資有価証券	4,932	資本剰余金合計	15,971
関係会社株式	1,424	利益剰余金	
長期貸付金	13	利益準備金	1,254
関係会社長期貸付金	7,684	その他利益剰余金	6,387
破産更生債権等	1	特別償却準備金	628
長期前払費用	282	固定資産圧縮積立金	64
繰延税金資産	1,076	別途積立金	12,300
その他の投資	175	繰越利益剰余金	△6,605
貸倒引当金	△94	利益剰余金合計	7,641
		自己株式	△5
		株主資本合計	42,472
		評価・換算差額等	
		その他有価証券評価差額金	1,087
		評価・換算差額等合計	1,087
資産合計	119,150	純資産合計	43,560
		負債純資産合計	119,150

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

損益計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

科 目	金 額	
売 上 高		88,534
売 上 原 価		74,477
売 上 総 利 益		14,056
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		15,852
営 業 損 失		1,795
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	107	
受 取 配 当 金	153	
雑 収 入	196	457
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	236	
雑 損 失	231	468
経 常 損 失		1,806
特 別 利 益		
関 係 会 社 清 算 益	95	
固 定 資 産 撤 去 費 用 引 当 金 戻 入 額	173	268
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損 失	382	
減 損 損 失	3,763	
災 害 に よ る 損 失	200	
そ の 他	97	4,444
税 引 前 当 期 純 損 失		5,982
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	10	
法 人 税 等 調 整 額	△365	△355
当 期 純 損 失		5,626

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

招 集 ご 通 知

事 業 報 告

連 結 計 算 書 類 等

監 査 報 告 書

株 主 総 会 参 考 書 類

株主資本等変動計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計
平成29年4月1日残高	18,864	15,971	15,971	1,254	12,681	13,935
当期中の変動額						
特別償却準備金の取崩(△)			—		—	—
固定資産圧縮積立金の取崩(△)			—		—	—
剰余金の配当(△)			—		△667	△667
当期純損失(△)			—		△5,626	△5,626
自己株式の取得(△)			—		—	—
株主資本以外の項目の当期中の変動額（純額）			—		—	—
当期中の変動額合計	—	—	—	—	△6,293	△6,293
平成30年3月31日残高	18,864	15,971	15,971	1,254	6,387	7,641

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成29年4月1日残高	△4	48,768	948	948	49,716
当期中の変動額					
特別償却準備金の取崩(△)		—		—	—
固定資産圧縮積立金の取崩(△)		—		—	—
剰余金の配当(△)		△667		—	△667
当期純損失(△)		△5,626		—	△5,626
自己株式の取得(△)	△1	△1		—	△1
株主資本以外の項目の当期中の変動額（純額）		—	138	138	138
当期中の変動額合計	△1	△6,295	138	138	△6,156
平成30年3月31日残高	△5	42,472	1,087	1,087	43,560

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

(その他利益剰余金の内訳)

(単位：百万円)

	その他利益剰余金				
	特別償却 準備金	固定資産 圧縮積立金	別 途 積立金	繰越利益 剰余金	その他 利益剰余金 合 計
平成29年4月1日残高	771	65	12,300	△455	12,681
当期中の変動額					
特別償却準備金の取崩(△)	△142			142	—
固定資産圧縮積立金の取崩(△)		△0		0	—
剰余金の配当(△)				△667	△667
当期純損失(△)				△5,626	△5,626
自己株式の取得(△)					—
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)					—
当期中の変動額合計	△142	△0	—	△6,150	△6,293
平成30年3月31日残高	628	64	12,300	△6,605	6,387

(注) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

招集ご通知

事業報告

連結計算書類等

監査報告書

株主総会参考書類

連結計算書類に係る会計監査人監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

平成30年5月14日

中越パルプ工業株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

指 定 社 員 公認会計士 神山 俊一 ㊟
業務執行社員

指 定 社 員 公認会計士 小川 聡 ㊟
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、中越パルプ工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、中越パルプ工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

平成30年5月14日

中越パルプ工業株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

指 定 社 員 公認会計士 神山 俊一 ㊟
業務執行社員

指 定 社 員 公認会計士 小川 聡 ㊟
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、中越パルプ工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第102期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

招集ご通知

事業報告

連結計算書類等

監査報告書

株主総会参考書類

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第102期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ①監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制に関わる部門と連携の上、取締役会、月次に行われる重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて説明を求め、その本社及び主要な事業所を訪問し、質問等を行いました。
- ②会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、専門性に裏付けられた適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人から事前に監査計画の説明を受け、また職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制を企業会計審議会が定める「監査に関する品質管理基準」等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表及びその附属明細書）並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき重要な事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人である仰星監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人である仰星監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成30年5月15日
中越パルプ工業株式会社
監査等委員会

常任監査等委員(常勤) 小 林 敬 ㊟

監査等委員 杉 島 光 一 ㊟

監査等委員 山 口 敏 彦 ㊟

(注) 監査等委員杉島光一と監査等委員山口敏彦は会社法第2条第15号及び第331条第6項に定める社外取締役であります。

以 上

株主総会参考書類

議案および参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、当事業年度における業績の状況や企業体質の強化ならびに今後の事業展開等を勘案しながら十分な株主資本の水準を維持するとともに、株主各位に対する利益還元のための安定配当の実施を基本方針としております。

当期の期末配当につきましては、下記のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

(1) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその額

当社普通株式 1株につき金 25円

総 額 333,803,925円

なお、既実施しております中間配当金（1株につき2円50銭）は、平成29年10月1日を効力発生日として普通株式10株を1株に併合した影響を考慮した場合、1株につき25円に相当します。合わせまして、当期の年間配当金は1株につき50円となります。

(2) 剰余金の配当が効力を生じる日

平成30年6月28日

第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

現任取締役（監査等委員である取締役を除きます。以下、本議案において同じです。）全員（6名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

このたび、中期3ヶ年計画の推進にあたり、より機動的な経営体制で臨むため、取締役5名の選任をお願いしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式の数
1	<p>【再任】</p> <p>かとう あきよし 加藤 明美 (昭和25年4月2日生)</p>	<p>昭和49年4月 王子製紙株式会社入社 平成10年7月 当社企画管理本部企画管理部上級調査役 平成21年6月 当社常務取締役経営管理本部長、内部監査室担当 平成23年6月 当社専務取締役経営管理本部長、資源対策本部・内部監査室・東京事務所管掌 平成25年6月 当社専務取締役、社長補佐・資源対策本部管掌 平成26年4月 当社代表取締役社長、資源対策本部管掌 平成26年6月 当社代表取締役社長 平成29年6月 当社代表取締役社長、開発本部管掌(現任)</p>	4,000株
<p>【取締役在任年数（本総会終結時）】 9年</p> <p>【取締役会への出席状況】 14回/14回（100%）</p> <p>【取締役候補者とした理由】 同氏は企画管理部門をはじめ幅広い分野での実務経験をもって当社の経営に携わり、平成26年4月から代表取締役社長を務めております。同氏の長年に亘る企業経営における豊富な経験と知見を当社の経営に活かすこと、また中期計画を統括して推進するため、引き続き取締役候補者といたしました。</p>			

氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式の数
<p>【再任】</p> <p>うえまつ ひさし 植松 久 (昭和31年4月13日生)</p>	<p>昭和55年4月 当社入社</p> <p>平成17年10月 当社原材料部資材担当部長</p> <p>平成22年6月 当社執行役員経営管理本部副本部長兼 管理部長</p> <p>平成23年6月 当社執行役員高岡工場長兼営業本部副 本部長</p> <p>平成24年6月 当社上席執行役員高岡工場長兼営業本 部副本部長</p> <p>平成24年10月 当社上席執行役員高岡工場長兼洋紙板 紙営業本部副本部長</p> <p>平成25年6月 当社取締役経営管理本部長、内部監査 室・東京事務所管掌</p> <p>平成26年6月 当社常務取締役経営管理本部長、内部 監査室・東京事務所管掌</p> <p>平成28年6月 当社専務取締役営業本部長（現任）</p>	<p>4,200株</p>
<p>【取締役在任年数（本総会終結時）】 5年</p>		
<p>【取締役会への出席状況】 14回/14回（100%）</p>		
<p>【取締役候補者とした理由】</p>		
<p>同氏は入社以来、原料・資材調達部門、企画財務部門、営業部門など多岐に亘る分野に携わり、経営に対する高い知見と豊富な実務経験を有していること、また中期計画における営業部門の事業再構築を推し進めるため、引き続き取締役候補者となりました。</p>		
<p>【再任】</p> <p>おおしま ただし 大島 忠司 (昭和35年12月4日生)</p>	<p>昭和58年4月 神崎製紙株式会社入社</p> <p>平成15年6月 王子製紙株式会社苫小牧工場管理部副 部長</p> <p>平成19年6月 同社洋紙事業本部洋紙企画業務部長</p> <p>平成20年6月 同社富岡工場事務部長</p> <p>平成24年10月 江蘇王子製紙有限公司董事兼副総経 理</p> <p>平成28年9月 当社参与経営管理本部副本部長兼管 理部長</p> <p>平成29年6月 当社取締役経営管理本部副本部長兼 管理部長（現任）</p>	<p>200株</p>
<p>【取締役在任年数（本総会終結時）】 1年</p>		
<p>【取締役会への出席状況】 11回/11回（100%）</p>		
<p>【取締役候補者とした理由】</p>		
<p>同氏は企画管理部門をはじめ洋紙事業部門、海外事業部門など幅広い分野に携わり、経営企画・財務における高度な知見と豊富な実務経験を有しています。今後展開する中期計画遂行の中核として同氏の豊富な知見と経験を活かすため、引き続き取締役候補者となりました。</p>		

氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式の数
<p>【再任】</p> <p>みうら あらた 三浦 新 (昭和32年5月16日生)</p> <p>4</p>	<p>昭和56年4月 当社入社</p> <p>平成5年1月 当社山林部シアトル駐在事務所</p> <p>平成22年6月 当社執行役員営業本部副本部長兼営業第二部長</p> <p>平成23年6月 当社執行役員営業本部副本部長</p> <p>平成24年8月 当社執行役員営業本部副本部長兼技術サービス部長</p> <p>平成24年10月 当社執行役員洋紙板紙営業本部副本部長兼大阪営業支社長</p> <p>平成26年6月 当社上席執行役員資源対策本部副本部長</p> <p>平成27年6月 当社上席執行役員資源対策本部副本部長兼原材料部長</p> <p>平成28年6月 当社取締役資源対策本部長兼原材料部長(現任)</p> <p>【取締役在任年数(本総会最終時)】 2年</p> <p>【取締役会への出席状況】 14回/14回(100%)</p> <p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>同氏は入社以来、原料調達や営業部門など幅広い分野に携わり、豊富な経験と実績を有していること、また今後の原燃料調達における効率化、コストダウンをより一層推進するため、引き続き取締役候補者となりました。</p>	<p>3,100株</p>
<p>【再任】</p> <p>じぞう しげき 地蔵 繁樹 (昭和33年8月23日生)</p> <p>5</p>	<p>昭和56年4月 当社入社</p> <p>平成24年6月 当社執行役員生産本部副本部長</p> <p>平成25年6月 当社執行役員高岡工場長兼洋紙板紙営業本部副本部長</p> <p>平成27年6月 当社上席執行役員生産本部副本部長</p> <p>平成27年7月 当社上席執行役員生産本部副本部長兼生産技術部長</p> <p>平成28年6月 当社取締役生産本部長兼生産技術部長</p> <p>平成29年6月 当社取締役生産本部長(現任)</p> <p>【取締役在任年数(本総会最終時)】 2年</p> <p>【取締役会への出席状況】 14回/14回(100%)</p> <p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>同氏は入社以来、技術部門担当として生産設備の設計や建設等に携わり、同分野における豊富な経験と実績を有していること、また技術部門の統括として、中期計画における実効性の高い設備投資を実施するため、引き続き取締役候補者となりました。</p>	<p>2,300株</p>

(注) 各候補者と当社との間には、いずれも特別の利害関係はありません。

第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

現任監査等委員である取締役全員（3名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査等委員である取締役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査等委員会の同意を得ております。監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式の数
<p>【再任】</p> <p>こばやし たかし 小林 敬 (昭和27年6月26日生)</p>	<p>昭和50年4月 当社入社 平成19年6月 当社参与高岡工場次長兼事務部長兼本社営業本部北陸駐在 平成20年6月 当社参与（中越ロジスティクス株式会社常務取締役） 平成21年6月 当社参与（中越ロジスティクス株式会社代表取締役社長） 平成25年6月 中越ロジスティクス株式会社代表取締役社長 平成27年6月 当社常任監査役（常勤） 平成28年6月 当社取締役常任監査等委員（常勤）（現任）</p>	<p>1,500株</p>
<p>【監査等委員である取締役在任年数（本総会終結時）】 2年</p> <p>【取締役会への出席状況】 14回/14回（100%）</p> <p>【監査等委員会への出席状況】 13回/13回（100%）</p> <p>【監査等委員である取締役候補者とした理由】</p> <p>同氏は当社での経験を活かしグループ企業の経営に携わるなど、豊富な経験と実績を有しております。</p> <p>同氏の経営に関する豊富な経験と実績を当社の経営に活かし、より客観的な視点で経営に携わっていただくこと、また中期計画の遂行において同氏の経営に関する経験から適切な指導、助言をいただきたいため、引き続き監査等委員である取締役候補者といたしました。</p>		

氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式の数
<p>【再任】 【社外取締役】 【独立役員】</p> <p>すぎしま てるかず 杉島 光一 (昭和25年3月12日生)</p>	<p>昭和47年4月 兼松江商株式会社入社 昭和49年10月 プライスウォーターハウス会計事務所 入所 昭和53年4月 芹沢法律会計事務所入所 昭和54年3月 公認会計士登録 昭和54年6月 税理士登録 昭和60年4月 杉島公認会計士事務所設立 平成19年6月 スターゼン株式会社社外監査役 平成20年6月 ヒロセ電機株式会社社外監査役（現 任） 平成27年6月 当社社外監査役 平成28年6月 当社社外取締役監査等委員（現任）</p>	<p>0株</p>
<p>2</p>	<p>【監査等委員である社外取締役在任年数（本総会終結時）】 2年 【取締役会への出席状況】 14回/14回（100%） 【監査等委員会への出席状況】 13回/13回（100%） 【取締役会、監査等委員会での発言状況】 同氏は、長年に亘る公認会計士としての経験をもとに取締役会において経営の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。 監査等委員会においては幅広い知見を活かし、監査等委員会としての意思決定の妥当性、適正性を確保するための発言を行っております。 【監査等委員である社外取締役候補者とした理由】 同氏は公認会計士として培った豊富な経験と幅広い知見を有しております。同氏は直接企業経営に関与された経験はありませんが、他会社の社外監査役としての豊富な経験ならびに当社の監査等委員としての経験を活かし、より客観的な視点で経営の意思決定に携わっていただけると判断していること、また今後展開する中期計画において、他会社における経験などをもとに、助言・提言をいただきたいことから、引き続き監査等委員である社外取締役候補者となりました。</p>	

氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式の数
<p>【再任】 【社外取締役】 【独立役員】</p> <p>やまぐち としひこ 山 口 敏 彦 (昭和32年10月26日生)</p>	<p>平成3年4月 弁護士登録 平成7年4月 山口法律事務所設立 平成13年4月 富山家庭裁判所調停委員、高岡簡易裁判所調停委員（現任） 平成27年6月 アルビス株式会社社外監査役（現任） 当社社外監査役 平成28年6月 当社社外取締役監査等委員（現任）</p>	0株
3	<p>【監査等委員である社外取締役在任年数（本総会終結時）】 2年 【取締役会への出席状況】 13回/14回（92%） 【監査等委員会への出席状況】 12回/13回（92%） 【取締役会、監査等委員会での発言状況】 同氏は、弁護士として法律に関する高度な知見を活かし、取締役会において意思決定の適法性、妥当性、適正性を確保するための助言・提言を行っております。 監査等委員会においては専門的知見に基づく助言と、監査等委員会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための発言を行っております。 【監査等委員である社外取締役候補者とした理由】 同氏は法律の専門家として豊富な経験と知見を有しております。同氏は直接企業経営に関与された経験はありませんが、豊富な経験と知見を活かし、当社の経営に対し適法性、妥当性についての確かな意見をいただいております。監査等委員としての経験を活かし、今後展開する中期計画の遂行を含め総合的に当社の経営に参画し、適切な助言・提言をいただきたいことから、引き続き監査等委員である社外取締役候補者といたしました。</p>	

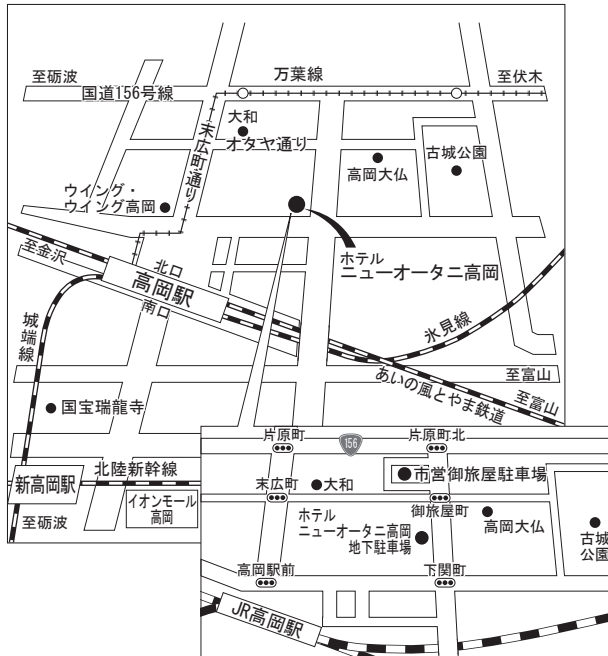
- (注) 1. 各候補者と当社との間には、いずれも特別の利害関係はありません。
2. 杉島光一氏と山口敏彦氏は、社外取締役候補者であります。
3. 杉島光一氏と山口敏彦氏は、当社との間に特別の利害関係がなく、一般株主との利益相反が生じるおそれがないことから、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ており、両氏の選任が承認された場合、引き続き独立役員とする予定であります。
4. 当社は、社外取締役（監査等委員）杉島光一氏および山口敏彦氏との間で、当社定款および会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の定める賠償責任を法令が定める額に限定する契約を締結しており、両氏の選任が承認された場合、当該責任限定契約を継続する予定であります。

以 上

株主総会会場ご案内図

会場 富山県高岡市新横町1番地
TEL:0766-26-1111 (代表)
ホテルニューオータニ高岡

交通 あいの風とやま鉄道(株) 高岡駅下車
同駅前より徒歩5分
北陸新幹線 新高岡駅下車
①新高岡駅南口バス乗り場1、2番より
高岡駅行きシャトルバスに乗車、約8分
②同駅前よりタクシーに乗車、約11分
お車でお越しの場合は以下の駐車場をご利用ください。
①ホテルニューオータニ高岡地下駐車場
②市営御旅屋駐車場



本紙は当社CRMペーパー
「里山物語上質」
を使用しております。